

4) 調査結果

(1) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落の植生調査結果を表 6.3-21 に示した。調査地点の植物の生育状況の推移を図 6.3-73～ 6.3-76 に示した。

北側の調査地点においては、平成 23 年の 6 月から翌年 1 月の調査で草丈が 0.3m から 0.7m に伸長し、植被率も 15% から 60% に増加した。植被率は、6 月が 15%、9 月が 50%、1 月が 60% であり、6 月から 9 月にかけて急速に増加していた。出現種は移植したリュウキュウチクのほか、高茎草本であるススキの被度が高くなり、次いでシダ植物のホシダ等が出現した。平成 24 年度では、1 月において草丈が 1.5m、植被率 80% であった。平成 23 年 6 月時の調査と比較すると、草丈は 0.3m から 1.5m へ伸長し、植被率も 15% から 80% と増加した。

南東側の調査地点においては、平成 23 年の 6 月から翌年 1 月の調査で草丈が 0.25m から 0.7m に伸長し、植被率も 10% から 80% に増加した。植被率は、6 月が 10%、9 月が 70%、1 月が 80% であり、6 月から 9 月にかけて急速に増加していた。出現種は移植したリュウキュウチクのほか、高茎草本であるススキが優占し、草本類のコバナヒメハギ、ナワシロイチゴ、リュウキュウバライチゴの出現頻度が高くなっていた。平成 24 年度では、1 月において草丈が 1.5m、植被率 95% であった。平成 23 年 6 月と比較すると、草丈は 0.3m から 1.5m へ伸長し、植被率も 10% から 95% と増加した。

南側の調査地点においては、平成 23 年の 6 月から翌年 1 月の調査では、草丈が 0.4m から 0.6m に伸長し、植被率も 20% から 40% に増加した。植被率は、6 月が 20%、9 月が 40%、1 月が 40% であり、6 月から 9 月にかけて急速に増加していた。出現種は移植したリュウキュウチクのほか、高茎草本であるススキ、木本類のアカメガシワやフカノキなどが出現した。平成 24 年度では、1 月において草丈が 1.2m、植被率 40% であった。平成 23 年 6 月と比較すると、草丈は 0.4m から 1.2m へ伸長し、植被率も 20% から 40% と増加した。

西側の調査地点においては、平成 23 年の 6 月から翌年 1 月の調査では、草丈が 0.25m から 1.0m に伸長し、植被率も 20% から 75% に増加した。植被率は、6 月が 20%、9 月が 60%、1 月が 75% であり、6 月から 9 月にかけて急速に増加していた。出現種は移植したリュウキュウチクのほか、高茎草本であるススキや木本類のホソバムクイヌビワ、シマイズセンリョウ、草本類のハウロクイチゴ、ナワシロイチゴ等が出現した。平成 24 年度では、1 月において草丈が 1.3m、植被率 60% であった。平成 23 年 6 月と比較すると、草丈は 0.25m から 1.3m へ伸長し、植被率も 20% から 60% と増加し



図 6.3-73 マント群落・ソデ群落の推移(N-4.1 北側)



図 6.3-74 マント群落・ソデ群落の生育状況(N-4.1 南東側)



6. 3-75 マント群落・ソデ群落の生育状況(N-4. 1 南側)



6.3-76 マント群落・ソデ群落の生育状況(N-4.1 西側)